

鹿児島流

熱いハートの医師 育てます



観音滝（さつま町） 写真協力：観光かごしま大キャンペーン推進協議会

私の臨床研修医時代

鹿児島県立大島病院
放射線科部長かねつき
鐘撞いちろう
一郎

出身校 鹿児島大学

放射線科K医局長の“メスをカテーテルにかえて”に憧れて入局しました。S63年大学にMRIはなく、CTは1日8例で、血管造影と気管支内視鏡と進行癌患者さんの入院主治医でした。内科が呼吸器を診ていなかったため、肺癌や肺結核の主治医も放射線科医でした。

K先生に給料の5%から10%は教科書を買え、と言われ、毎月2万円は教科書（フェルソンやマイヤースなど）を購入していました。

研修医終了後は、兄弟子のS先輩経由でN医大で胆道IVRの修学を1年、K先生が関連病院にされたO県立C病院で救急放射線を2年間経験でき、とても勉強になりました。大変ありがたかったです。

N医大U教授は、“IVR医は、画像診断にも精通していないと。IVRより放射線照射が患者さんにとって良いのなら、IVRに固執するな。”C病院M院長（心血管外科医）は、“病気を専門臓器で診るな。全身を診察しろ。放射線科医は、甲状腺や乳腺エコーもやれ、骨単純写真も読影しろ”と。今も忘れません。



出身地 鹿児島県

指導医の思い出



出身地 神奈川県

せき しゅんじ
関 俊二

出身校 新城高等学校▶鹿児島大学

勤務先▶鹿児島生協病院

医師になって二ヶ月。担当患者に会いに行った私を待っていたのは、突然発症した脳梗塞のため喋れなくなった患者の姿だった。急いで上級医を呼び、これで助かったと思っていた私はその後地獄を見ることになる。「あなた主治医でしょ。指示だして」の一言。脳梗塞という言葉、機序くらいは知っていた。しかしどんな検査・薬を出すべきなのか全くわからなかった。心のどこかで上級医が助けてくれるだろうと思っていたが、いつまでたっても何も教えてくれなかった。無情にも過ぎていく時間は恐怖以外の何物でもなかった。結局最後は指示を出してくれたが、その医師の言葉を今でも忘れられない。「いい？ 医師になるってこういうことだよ。悔しかったら勉強しなさい」。あれから十年、辛い経験以上にかげがえのない宝物が増えた。医師には医師にしかできないことがたくさんある、その事を誇りに思っ研修してほしい。



出身地 佐賀県

た なか ひでや
田中 秀弥

出身校 東明館高等学校▶佐賀大学

研修先▶大隅鹿屋病院

初期研修2年間で義務化された初めの年であったため、心臓血管外科に入局を決めていたものの、産婦人科や小児科、精神科など大学で2年間、各科で研修をさせていただきました。小児科ではICU管理を経験させていただいたり、乳幼児のルート確保を行ったりと、以前の職場である救急クリニックでもその経験を活かすことができました。また1か月～3か月と短いスパンで職場（各診療科）や人間関係が変化することは、専門科での勉強という面だけでなく、人間関係やその科特有の時間の流れに臨機応変に対応するという面においても、自分にとって訓練になりました。

年をとるにつれてどんどん慎重になり、臆病になってきた気がします。今思い返せば、研修医時代は無責任だったなぁと反省することもあります。自分の進む専門科を決めていても、各科をローテーションすることは有意義なことだったと感じています。



出身地 鹿児島市

よしかわ ひでき
吉川 英樹

出身校 ラ・サール高等学校▶鹿児島大学

勤務先▶霧島市立医師会医療センター

1998年に鹿児島大学小児科に入局しました。研修開始6か月目で大学病院から出向した鹿児島こども病院での6か月間の研修は特に思い出に残っています。当時の時代でもありますが、病院に住み込み、3食病院食、風呂はオベ室のシャワー、子守歌と目覚ましはモニターのアラーム音、病棟約40人の患者の主治医を行い、月20回前後のほぼ徹夜の当直など、日常生活が小児科診療そのものでした。昼夜問わず、点滴や採血の上手な看護師の手技、院長や先輩医師の台詞・処方内容・検査の仕方、技師のレントゲン、エコー、CTの撮り方、麻酔科医のマスク換気の手技、などを真似て実践して試行錯誤の日々でした。今となってはやる気だけあって何もできない研修医に、よくぞ何でもさせてくれたな、と病院スタッフに感謝の気持ちでいっぱいです。20数年前に得たかけがえのない経験は、現在の診療にも役立っています。



出身地 京都市

たかさき くにつぐ
高崎 州亜

出身校 ヴィアートル学園洛星高等学校▶鹿児島大学

勤務先▶鹿児島医療センター

私の研修医時代は現在のような臨床研修プログラム制度はなかったため、卒業と同時に入局して医局関連病院での研修が主体でした。医学部6年生の知識と情報だけで、循環器科の大学院入学と入局を決めた訳ですから、今から思うとずいぶんいい加減だなと思います。研修医時代に担当した末期がん患者の最期を看取った時、主治医としてのつらさ・苦しさを初めて味わい、患者家族とともに涙したことを思い出します。知識や技術習得に走ってしまいがちになる研修のなかで、指導医から常に諭された“Patient First”のスピリットは、今も自分のなかに息づいています。研修病院で様々な患者や指導医に出会うなかで、どんな専門医になるかだけでなく、どんな医師になるのかを学ぶきっかけになって欲しいと願います。

研修医の声



出身地 鹿児島県

はしぐち たいが
橋口 大雅

出身校 志學館高等学校▶近畿大学

研修先▶南風病院

徐々に鹿児島に帰ってきて早くも半年が経とうとしている。国家試験を受けたのがもはやとおい昔のように思えるのは、未曾有のコロナ禍でたばたと時間が過ぎていったせいかもしれない。最初は自宅待機で本来の研修医より出遅れるところから始まった研修医生活も、気がつけば半年が経ち内科の研修も終わりに近づいていた。日常の業務に加え、救急当直に入る度に鑑別の基本的なところから指導医の先生方に教わり、手技的なところも先生方は勿論、他の医療職の方々、同期の助けもあり日々邁進できる充実した日々である。たった2年間ではあるが、研修医として働かせてもらいながら学び、その中で自分の進路を模索していかなければならない自分たちではあるが、医療の基礎を学べるこのまたとない時間を今後の礎とすべく、ともにこの病院に集いし同期と切磋琢磨していきたい。



出身地 霧島市

かいだ ゆうき
改田 祐紀

出身校 甲南高等学校▶久留米大学

研修先▶鹿児島市立病院

4月から鹿児島市立病院で研修が始まり、早くも半年が経ちました。先生はもちろん、同期や先輩、様々な職種の方々に助けられて、日々充実した研修生活を送っています。私はこれまで消化器内科、消化器外科で2ヶ月間研修し、現在は循環器内科で2ヶ月間の研修を行っています。
循環器内科では、心臓エコー検査やカテーテル治療での手技、心不全や心筋梗塞の患者さんについての病態や治療について学んでいます。先生からリアルタイムで考え方ややり方を教えてもらえるので、自分に足りない知識や思考が明確になり、とてもためになります。
消化器外科では地方会での学会発表のチャンスをいただきました。初めての学会発表だったので何から始めたら良いかわからず、先生に手取り足取り教えていただきながら準備を進めました。症例に関する論文を読みあさり、自分なりの解釈を加えてスライドを作成し、発表を行うことで多くのことを学び、深めることができました。この半年、医師として至らない点が多く周りにご迷惑をお掛けしてばかりですが、優しく指導して下さる方々のおかげで、成長を感じながら日々働くことができている。残りの研修生活も全力で取り組み、知識や経験を増やしていきたいと思っています。



出身地 鹿児島県

かみむら みく
神村 未来

出身校 志學館高等部▶産業医科大学

研修先▶今給黎総合病院

10月を迎え、初期研修生活もあともう少しとなりました。1年前はまだわからないことが多かったのですが、最近は救急外来等でもスムーズに診察出来るようになったと実感します。研修が始まる前は出来るだけ多くの診療科で研修させていただきたくかったので、1ヶ月のスパンで診療科が変わっており、1ヶ月で身につけることが出来るか不安もありました。しかし、短い期間の中でもしっかり勉強させていただき、今に役立てることが出来ていると思います。

今給黎総合病院は来年移転を行うこともあり、移転作業という貴重な体験をさせていただきます。研修後半は病院自体も慌ただしくなりますが、残り少ない期間、学べることを学び、今後の医師生活に役立てることができればと思います。



出身地 鹿児島市

こだま せりな
児玉 世利汝

出身校 鶴丸高等学校▶鹿児島大学

研修先▶鹿児島大学病院

気がけばもう初期研修も終わりを迎えようとしています。医師と名乗るのが恥ずかしいほど何もできなかった最初の頃と比べ、大病院や地域の病院での研修を通して少しずつできることが増えてきました。様々な病院・科を回ること、習得できる手技や考え方も増え、今後自分が主治医として患者を診ていく上での自信に繋がりました。また学生の頃とは違った視線で見ることそれぞれの科にいろいろな良さを発見することができ、その分入局先を決めるのにぎりぎりまで悩み苦勞しました。4月から今までとは違う立場で働くことに不安もたくさんありますが、2年間の研修で学んだことを生かしつつ、さらに多くの経験を積んで鹿児島の医療に貢献していきたいと思っています。

ト

TOPICS

ピ ッ ク ス



レジナビフェアオンライン九州・沖縄Week2020に参加しました

令和2年9月3日(木)にオンライン説明会、令和2年9月4日(金)にオンライン座談会に参加しました。

オンライン説明会では、オールかごしまコンシェルジュの中俣医療審議監から鹿児島の臨床研修体制や当協議会の取組について説明を、その後、県立大島病院の研修医2年目の熊原先生より、学生時代の話から臨床研修病院の選び方、臨床研修の内容等、ご自身の経験を踏まえた説明をさせていただきました。

オンライン座談会では、説明会と違い、少人数でのミーティングの場で、医学生の方々から個別の質問に回答するという形式で実施しました。

オンライン説明会の内容については、レジナビWebサイトより視聴いただけます。当日参加できなかった方や、もう一度視聴したい方は、下記レジナビWebサイトよりご確認ください!!

<https://www.residentonavi.com/rnfair/ks20083>



県外医学生等出前セミナーについて

当協議会では、県内の研修医や指導医が、県外医学生の住むまちに伺い、県内の最新の研修プログラムについて説明したり、病院見学や、臨床研修のこと、鹿児島での生活についてなど、医学生からの質問についてお答えしたりする「県外医学生等出前セミナー」を開催しています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、訪問することが難しくなっています。そこで、オンラインシステム「zoom」を使い、オンラインでの面談を実施していきます。県外にいながら、研修医や指導医の生の声を直接聞くことができる機会として、お一人でも、ご友人と一緒に大歓迎ですので、興味のある方はぜひ当協議会事務局までご連絡ください。

e-mail: iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL: 099-286-2581



協議会公式 Web サイト開設!!

鹿児島県くらし保健福祉部医師・看護人材課が当協議会事務局として運営し、皆様に医療情報・各種イベント情報を発信していく公式Webサイトです。

県内の臨床研修病院間の連携強化を図り、「オール鹿児島体制」による魅力ある臨床研修体制を構築・展開し、研修される皆様にサポートしていきます。

公式WebサイトURL

⇒ <https://kagorinsho.jp/>



鹿児島県初期臨床研修連絡協議会 (事務局: 鹿児島県 くらし保健福祉部 医師・看護人材課)

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

e-mail iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL 099-286-2581 FAX 099-286-5928

<https://kagorinsho.jp/>